

第77回ちちぶ総会報告	2~3
総会声明 福島第一原発の「処理水」海洋放出を 強行せず、汚染水発生量の抜本的な削減を求める	3
ポスター賞・ポスター奨励賞を受賞して	4
支部だより：青森支部総会が開催されました	5
ちちぶ総会の感想	5
支部だより：大阪支部総会での特別講演会を聞いて	6
会員の声：磐梯山、研究データ窃盗事件	6~7
『新版地学事典』編集委員会ニュース No.14	7
放題・お知らせ	8

磐梯山、研究データ窃盗事件

今回は、研究データ窃盗事件について書く。793号で「会津テラス問題」、800号で「明治神宮の破壊問題」を報じた。以下の内容は、被害者の竹本弘幸氏が2019年の日本地理学会で発表（後述）したPowerPoint資料から要点を抜粋したもので、彼から「そくほうに公開する承認」もいただいた。

事の発端は、私が2007年、書籍「磐梯山に強くなる本」（磐梯山噴火記念館発行、館長S氏）に「竹本氏所有の磐梯山1888年噴火の重要写真」が掲載されている事を発見した。すぐに竹本氏に連絡した処、彼はS氏と面識は無く「無断使用」と判明した。

この問題を時系列に書く。竹本氏は2002年の日本火山学会秋季大会で「磐梯山噴火の写真の再検討」をポスター発表した。この磐梯山1888年噴火では、小磐梯山が山体崩壊を起こした。写真には、噴煙中に小磐梯山があり「小磐梯山の崩壊が噴火の初期ではない事」を示す重要な写真であった。大会の翌日、火山学会主催の一般向けセミナーが福島市で開催された。この担当責任者が「宇都宮大学N教授（当時）」で、竹本氏と契約「写真をセミナーの講演のみで使用する」を結び、問題の写真（画像データ）を借用した。ところが、N氏は「セミナーの配布物」にもこの写真を使った。さらに、N氏は知人（S氏も含む）にこの写真を横流しした。後述の

一研究者のモラル、地団研の精神一

状況から、この写真は火山学会関係者の多くに流れたと考えられる。この写真横流し（研究データ窃盗）の事実を知った竹本氏は、火山学会に激しく抗議した。ところが、火山学会は「竹本氏とN氏の個人的な問題」として、門前払いにした。また、この写真は多方面に流れ、内閣府中央防災会議2006年発行の「1888磐梯山噴火報告書」にも使われた。こちらは、竹本氏の抗議で、ネット公開の一部が削除された。

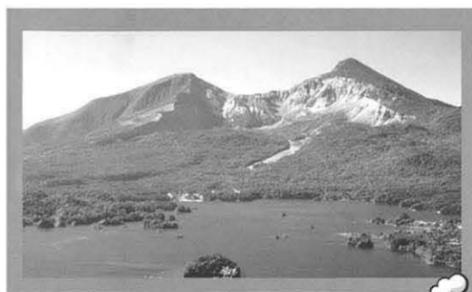
さらに、元東北大学教授H氏ら数名が2012~14年に火山学会誌「火山」に、この画像を使った論文「1888年磐梯山水蒸気爆発に関するノート」を4回に分けて掲載した。呆れたことに「査読者は窃盗元のN氏」であった。これに対し、竹本氏は火山学会に再度抗議した。今度は、火山学会の運営メンバーが変わり、この研究データ窃盗事件を問題視した。その結果、学会誌「火山」に学会としての謝罪文が掲載され、該当論文から窃盗関連部分が削除された。J-stageでこれらの論文を開くと、謝罪文が掲示され、窃盗関連部分が削除されている。

また、竹本氏は、N氏とS氏を相手取り民事訴訟を起こした。その結果、裁判所から和解勧告がなされ、実質的に竹本氏の全面勝訴となった。さらに、この和解条件に「S氏が関係機関に謝罪文（文面は和解協議で決定）を配布する事」があった。しかし、S氏は謝罪文を改ざんし「自分の悪行を矮小化した謝罪文」を関係機関に送った。この事にも竹本氏は激怒し、問題が再燃している。

竹本氏は、2019年の日本地理学会の大会で、本事件を口頭発表した。学会事務局から「非常に悪質なので、関係者を実名で発表せよ。」との要請があり、講演では窃盗関係者を実名で発表した（要旨はinitial）。

今回の問題の根底にあるのは「地道な努力を怠り、安易に業績を求めたこと」である。上記の問題から地団研も学ばねばならない。地団研の精神は「地元で根差した地道な調査研究」であり、論文にする場合は自分達のオリジナルデータを使うことである。さらに、地団研の運営メンバーは多種多様な人材で構成されるべきで、そうしないと上記のような問題が生じる。また、地団研の基本精神は「メンバーはすべて対等」であり、相手が大学教官や卒論の指導教官でも、おもねる事や忖度をしない事である。支部活動の変遷を見ると、徐々に大学教官「主導」の活動が増え、これが支部活動衰退の一因になったと私は見ている。

(2023.09.10 福島支部 千葉茂樹)



3 1888年の磐梯山の噴火による被害

皆さん、1888(明治21)年という時代を考えてみましょう。磐梯山が噴火活動を開始するとは、地元に住んでいる人々は誰も考えもしませんでした。火山についての学問は、世界的にもこれから始まるようになっている頃でした。磐梯山の噴火はこのような時代に起こったのです。

現在は、火山に異常があれば気象庁から「噴火が起こる可能性があります」などの情報が発表されますが、当時はそのような仕組みもありませんでした。

また、磐梯山はその前の噴火からかなり時間が過ぎていたので、地元に住んでいる人たちは、この山がまた噴火をする山とは思っていませんでした。

1週間ほど前から有震(体に感じる)地震などの異常現象が発生していたようですが、それを噴火の前兆(まえぶれ)とは、誰も思いませんでした。そのため、避難の必要性があると考えた人も残念ながらいませんでした。



← 窃盗された画像

「磐梯山に強くなる本」の表紙と窃盗された画像

2023年10月1日発行 (毎月1回1日発行)

編集 地学団体研究会全国運営委員会事務局

発行 地学団体研究会

印刷 株式会社アイネクス

TEL 029-836-5765 FAX 029-836-5766

そくほう No.802

〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-24-1 八大ビル301号

TEL 03-3983-3378 FAX 03-3983-7525

E-mail chidanken@tokyo.email.ne.jp

https://www.chidanken.jp

郵便振替 00160-2-144318 地学団体研究会